

第1回笠間市保育所施設整備計画検討委員会会議録（要旨）

日 時	平成22年6月14日（日） 午前10時から午前11時50分
場 所	笠間市役所本所 2階中会議室
出席者	<p>【出席委員】 高橋委員 大畠委員 畑岡委員 横堀委員 柴山委員 川野輪委員 塩幡委員 藤枝委員</p> <p>【欠席委員】 益子委員 石本委員</p> <p>【事務局】 櫻井子ども福祉課長 海老沢少子化対策室長 岡野主査</p>
会議次第	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 市長あいさつ</p> <p>4. 委員長及び副委員長の選出</p> <p>3. 議 事</p> <p>(1) 検討事項の確認</p> <p>(2) 笠間市の保育事業の現状</p> <p>(3) その他</p> <p>4. 閉 会</p>
傍 聴	傍聴者2名

会議内容

・委員長、副委員長の選出について	
選出については委員の互選となっているのでご意見を伺う。	
委 員	事務局案があれば伺いたい。
事務局	委員長に大畠委員、副委員長に横堀委員にお願いしたい。
事務局案了承	
委員長あいさつ後会議を進行する。	
議事1	検討事項の確認
事務局	資料に基づき説明。
特に意見は無く、議事進行する。	
議事2	笠間市の保育事業の現状
事務局	資料に基づき説明。
最初に「検討事項1）保育所の今後の定数及び保育サービスについて」の意見を伺う。	
以下主な意見等	

委員	<p>「参考資料 1 保育所整備に関する検討会報告書」の中に（2. 保育所の定数について）、（4. 保育サービスについて）がある。</p> <p>これに加えて何を検討するのか。</p>
事務局	<p>先の検討会は、次世代育成支援行動計画書を作成する際に、保育所整備のあり方で問題点を列記し、整理をお願いした。</p> <p>その整理をたたき台として、今回この委員会を正式な会として市のほうに意見をいただきたい。</p> <p>前回 1 月の報告書では相対的な、笠間市全部の資料で検討をいただいたので、今後は個々の地区別のパーセントなどへのご意見をいただき、三地区の特色などそれぞれにご意見をいただきたい。</p> <p>保育サービスについては、先にご意見をいただいたように「向上に努めるという事が基本」だと思うが、今後、笠間市が今欠けているものを、例えばこんなものを盛込んだほうが良いという事のご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>定数が資料 2-1 に載っているが、定数として適切な人数はどれくらいなのか。各地区に保育所が何か所あるのが適正なのか。</p>
事務局	<p>施設数には基準が無い</p> <p>ただ、意見として身近なところに預けたいという傾向はある。</p> <p>施設の数という点では、施設数ではなく定数である。</p> <p>定数は施設の面積によって人数が決まっている。</p>
委員長	<p>学童保育に関しての資料は無いけれど、学童保育は保育事業であるので必要であると思う。</p>
事務局	<p>個別保育所の定数ではなく、総体としての地区別の定数についての議論をしていただきたい。</p> <p>学童保育については、保育所で開設しているのは 1 か所で、笠間市の方針として、放課後児童クラブは学校敷地内の余裕教室か単独施設を利用しているのでここでの議論は考えなくて良い。</p>
委員	<p>友部地区に定員 30 名の保育所が出来たようだが、2 ヶ月過ぎた現在の状況はどうなのか。</p>
事務局	<p>6 月 1 日現在 1 名です。</p>
委員	<p>とすると、現在も定員を超えている。</p>
副委員長	<p>事例として、4 歳と 2 歳の子どもがいるある家庭で、4 歳の子は言葉が出ない。</p> <p>保育所で大きな子どもたちと接することで言葉を覚えて行くと思うが、笠間地区の保育所は公立のみで、送迎バスが無く自分で連れてゆかなければならないが、両親ともそれは出来ない状況である。</p> <p>笠間のサービス面で送迎が出来るかどうか伺いたい。</p>

事務局	<p>公立保育所で送迎バスは無い。</p> <p>サービスの内容によっては実費を負担していただく事になると思う。</p> <p>民間保育所で送迎をしているのは、岩間地区の三園だけです。</p>
委員	<p>子どもの数からして定数は増やせないという考えだと思うが、幼稚園としても「認定子ども園」を考えなければならなくなる。</p> <p>そうすると、保育所にも定員の影響が出るのか。</p>
事務局	<p>国のほうの定数の考え方としては将来人口を見て検討しろということになっている。</p> <p>既存の保育所の定数の増減で言えば、100%を超えている、超えていないという事だが、新たな施設を造るという判断材料は将来の推計人口、将来どうなるのかという事を考える。</p>
	<p>次に「検討事項2) 保育施設の今後の課題について」意見を伺う。</p> <p>以下主な意見等</p>
委員	<p>耐用年数はどれくらいか。</p>
事務局	<p>鉄筋であれば50年ですが、建物として「てらざき保育所」は昭和56年の建築基準法改正前の旧耐震設計基準に基づき建設され、築30年を超えている。</p> <p>民間の「おしのべ保育園」は移転場所を探している。</p>
委員	<p>築30年以上の公立保育所は耐震診断を優先的にやっていただいて、私立のほうは指導をするという事でどうか。</p>
	<p>次に「検討事項3) 保育料の水準について」意見を伺う。</p> <p>以下主な意見等</p>
委員	<p>県内他の自治体の保育料の資料はあるか。</p>
事務局	<p>調べれば解るので、次回の会議に資料としてそろえたい。</p> <p>保育料の具体的なものは、保育料審議会でご議論をいただいている。</p> <p>本委員会では、方向性として親の負担を軽減する方向に向かうのか、あるいは国の基準に従って負担していただくのかという点でお願いしたい。</p> <p>軽減している保育料は市の負担であるので、長期的な方向性でご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>少子化対策で市も大変だが、このまま継続していただきたい。</p>
委員	<p>利用者は笠間市が多く負担していることを知っているのか。</p>
事務局	<p>議会の一般質問でも、高いのではという質問をいただき、笠間市は平均35%減額していると回答している。</p>

	また、入所説明会でも保護者にお伝えしている。
委員	笠間市は優秀なほうだと思う。
委員	新しく来た人に話を聞くと、笠間市はサービスが良いから来た、という方が結構いる。
委員	出来れば維持していただきたい。
	次に「検討事項4）公立保育所の効率的な運営方策及び幼保一元化について」意見を伺う。 以下主な意見等
委員	幼稚園と保育園を一体化することでの住み分けが解らない。
事務局	市は保育所の認可と定数の関係を検討する場として、幼児施設設置協議会を持っている。 幼児教育の部分で教育委員会が方針を定めて、小学校入学前の子どもにどのような教育を保育部門で担ったほうが良いのかを定めてから認定子ども園は導入したほうが良いという意見があった。 その時は早いもの順ではなく、地区ごとに平均的にという話があった。 単に待機児童の解消手段として認定子ども園が有るのではなく、その機能について説明があってしかるべきと考えている。 出来てしまったものは、保育所機能は市として子どもを預けて運営費を出すので、指導してゆく。 国は今有る機能を変えてしまう可能性があり、来年の1月には法案が出てしまうかもしれない。 なので、市としては、先程の協議会で議論を深めてからということが適当なではと考えている。
委員	許可されてしまったものは、子どものことを考えて、指導をしてゆくという事であるなら、そのところは特に条件をつけてやらないと、先に許可したところは得と言うことになる。
委員長	県によってやっていないところもあるけれど、同じ子どもである。 幼稚園でも預かり保育をやるし、縦割り行政の中で、認定子ども園については国の文部科学省と厚生労働省とが連携推進室というのが作ってやっている。 幼稚園の場合1クラス35人の基準があるが、保育所の場合子どもの数と保育士の数だけである。 中味のところは学習指導要領に準じた保育指針と、幼稚園教育の整合性というか、3歳以上は教育、0・1・2歳については保育という事で、同じ子どもでありながらこっちは保育所の子、こっちは幼稚園の子という見方ではなく、施設が出来

て、子どもにとって良い施設であればと思う。

昔の人は地域の中・自然の中で、遊んでいたが、今そういう場が無いので幼稚園・保育所の学びの場が重要になってきている。

委員長 時間も経過したので残りの検討事項については次回行ないたい。

次回日程を決めて閉会